

さいたま市立浦和博物館館報

VOL. 37-1

あかんさす

通号 第 96 号

ACANTHUS : BULLETIN OF SAITAMA MUNICIPAL URAWA MUSEUM

埼玉サッカー100周年記念事業

特別展「100年前のさいたま
—まちと師範学校—」を開催して

はじめに

明治41年(1908年)、埼玉県師範学校に着任した細木志朗教諭が同校に蹴球部を作り、生徒にサッカーを教えたことが「埼玉サッカー」の起源とされています。そして本年はちょうど100年目にあたります。これを記念して、各機関が集まり「埼玉サッカー100周年記念事業」を展開しています。

浦和博物館でも、夏休み期間中に「当館＝鳳翔閣＝埼玉県師範学校＝埼玉サッカー発祥の地」という縁から、埼玉でサッカーが行なわれ始めた100年前を中心に明治末期から大正初期の埼玉県師範学校と浦和のまち、さらに市域内の出来事などを、細木教諭の資料を含め、写真や地図、文書などで展示しました。

準備

平成18年5月、埼玉大学(大学院文化科学研究科)、埼玉県立歴史と民俗の博物館と当館の三者で、平成20年度に埼玉サッカー100年の記念の展示会等を連携事業として開催するために、定期的な話し合いの場を設けることとしました。

数回の会合の後、平成19年夏にさいたま市(スポーツ企画課)が企画していたサッカー100周年記念事業に合流し、より多様な構成で連携を図っていくこととなりました。そして(財)埼玉県サッカー協会やさいたま市サッカー協会、さいたま市サッカーのまちづくり推進協議会も参加し、サッカーの発祥から脈々と受け継がれてきた伝統や文化を振り返り、現在から未来へと更なる普及・発展を図るための記念事業実施を目的に、「埼玉サッカー100周年記念事業」として正式に立ち上げました。

各事業そのものは単独で行うことを前提としました。これは収支の複雑化を避けるためでもありました。そして今年に入ってから、8月まで毎月運営委員会を開催



しました。その中で各事業の進捗状況を報告し、情報交換を行い、更に相乗効果が得られるように開催時期を調整したり、広報活動や資料調査を協力して合同で行うなど連携に努めました。

当館はサッカーに関する特別展を過去に2回開催したことがあります。平成9年秋「サッカーとの出会い」と平成16年秋「サッカー de きずな—浦和サッカーの100人—」です。今回は前回からまだ4年しか経っていないこと、そして埼玉県立歴史と民俗の博物館と同時開催することを踏まえ、サッカーの直接的な展示は行わず、切り口を変えて間接的にサッカーを捉えようと考えました。結果、「埼玉サッカー100年」のうちの「100年」に注目し、「100年前のさいたまのまち」を取り上げることとしました。

まず展示構成を[師範学校]と[当時のまち]の大きく2つに分け、漠然と前者を3割、後者を7割程度の比重で考えていました。しかし、資料調査等の結果、100年前(明治末期)のまちを特徴づけてよく表す資料が少ないのと、サッカー関連の展示なので「師範学校」や「細木教諭」をもう少し多くしようとした結果、最終的には

■ 目 次 ■

特別展「100年前のさいたま—まちと師範学校—」を開催して	1
行事カレンダー・日誌抄	4



前者を「埼玉県師範学校と鳳翔閣」として7割、後者を「100年前のまちと出来事」として3割の構成にして展示することになりました。内容については展示概要にて紹介します。

また開催時期については、例年の秋開催から、平成20年7月19日(土)から8月31日(日)まで「埼玉大学は8月29日(金)まで」の夏休みの開催に変更しました。これは、埼玉県立歴史と民俗の博物館や埼玉大学と協議した結果、2館1大学が同時期に開催することで、注目度を大きくし、来館者が交互に行き来してもらえればとの考えから時期を夏休みにしました。ただ、夏休みは子供向けの企画展示「夏休み子ども博物館」が恒例になっているため、この展示と同時開催という形で行うことにしました。

さらに、2館1大学で共同して展示図録を作成しました。当館分については、詳細な展示構成を決めながらの同時作業となりました。その後、展示構成を幾分変更して細木教諭についての説明を増やしたので、図録では逆にその部分の説明が少なくなっていました。

展示概要

【埼玉県師範学校と鳳翔閣】

①「埼玉サッカー発祥の地」

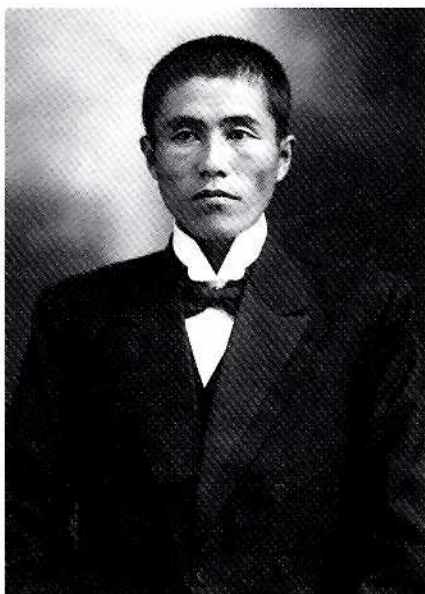
当館とサッカーとの縁を前述のように簡単に説明したあと、埼玉サッカーの発祥について展示しました。

まず、100年前(明治41年)にどこに持ち込まれたかということで、埼玉県師範学校とその場所について述べました。師範学校では当時熱心に取り組んだ生徒が、県内各地の小学校に先生として赴任し、サッカーを広めていったという地域のサッカー文化の源の説明と、その場所が現在のさいたま市役所市庁舎が建っているところで、敷地内には埼玉サッカー発祥の地の碑が建てられていることなどを紹介しました。また、どこから持ち込まれたかについて、日本サッカー普及の説明に欠かすことのできない東京高等師範学校を当時の地図を使って説明しました。

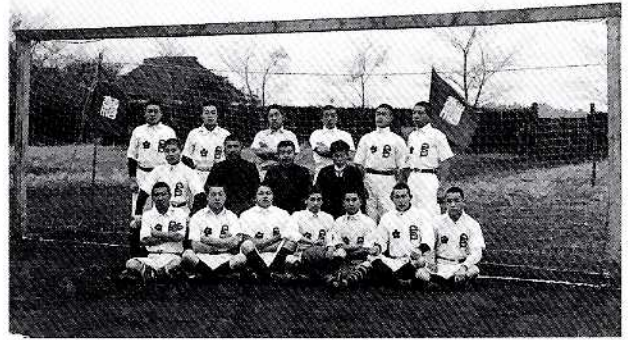
次に持ち込んだ人として細木志朗教諭について、特に着任前後のことを任命時の資料などを添えて詳しく紹介しました。

明治17年(1884年)9月に兵庫県有馬郡山口村(現在の西宮市)で生まれた細木教諭は、明治41年3月に東京

高等師範学校を卒業、4月より同校研究科(現在の大学院)に入學しています。在学中は右のウィング(右サイドに開いた攻撃的なポジション)として活躍する一方、同年6月発行された「Foot Ball」という解説書を東京高等師範学校蹴球部の仲間4人で著していま



細木志朗教諭



埼玉県初のサッカーゴールの前で(明治44年)

す。ちなみにこの本はサッカーの指導書としては日本で2番目に古く、具体的な解説が書かれたものとしては日本初のものと言われています。その著書で細木教諭は当時の言葉で「アウトサイド・フォーアワード」という自分のポジションについて具体的に解説しています。

当時最先端の技術と指導力を持った細木教諭は、同年6月6日に埼玉県師範学校に指導に来ています。これが縁だったのか6月末に東京高等師範学校をやめ、7月4日付けで埼玉県師範学校の教諭兼訓導に任命されました。そして細木教諭が埼玉県師範学校に着任されたのは、7月8日のことです。この日から埼玉のサッカーが本格的に始動し、今年100年を迎えたのです。

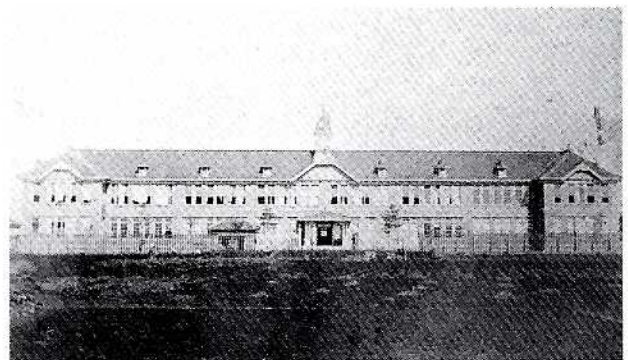
細木教諭を一言で言うと、「教育者」という言葉が一番似合う方で、明治の男子らしい厳格な中にも優しさや気配りの出来る人だったようです。これは孫にあてた書簡などからもうかがわれます。また、器用だったことは趣味の大工仕事で作られた品々を見ればわかり、埼玉県初のゴールポストを手作りで製作したことも頷けます。展示では寒稽古などのエピソードを交え、当時の蹴球部の写真などを展示しました。

②「埼玉県師範学校のあゆみ」

ここでは、埼玉県師範学校の歴史を校舎の移転を中心に当時の図面や写真で紹介しました。

明治6年(1873年)、浦和宿日本陣内に置かれた改正局で教員の養成が開始されます。翌年の明治7年(1874年)には、現在の浦和区岸町に校舎が新築され、埼玉県師範学校と改称しました。しかしこの校舎もすぐに手狭となり、明治11年(1878年)に現在の埼玉会館(浦和区高砂3丁目)の地に鳳翔閣と呼ばれた校舎が建てられました。

その後、明治30年(1897年)の師範教育令公布による国の方針に沿って定員を増やしたところ、鳳翔閣でも手狭となったため、明治33年(1900年)再び移転をします。



100年前の師範学校



現在のさいたま市役所（浦和区常盤6丁目）の地で、鯛ヶ窪校舎と呼ばれた場所です。

ここであえて強調したかったのは、サッカーを始めた100年前の校舎は、この鯛ヶ窪校舎であり鳳翔閣ではなかったことです。しかし現在のさいたま市役所の場所に移転しても「鳳翔閣」「鳳翔」という言葉は、埼玉県師範学校のシンボルとして受け継がれていきました。それは「ほまれは高し鳳翔閣」と校歌に歌われ、生徒を「鳳翔健児」と呼び、「鳳翔」という名の雑誌が移転後の明治35年（1902年）に創刊されたことなどからも伺われます。埼玉県師範学校と鳳翔閣は切っても切れない存在だったのです。

そして、この地では消失により大正3年（1914年）と昭和7年（1932年）に2度の建て替えが行なわれました。昭和18年（1943年）、埼玉県師範学校はそれまでの県立の学校から官立（国立）に移管され、埼玉師範学校の男子部と名称が変わりました。この時、埼玉県女子師範学校も同様に埼玉師範学校女子部となりました。

第二次世界大戦後、教育制度の見直しがされ、各種高等教育機関の再編・統合が行われます。埼玉師範学校は旧制浦和高等学校や深谷にあった埼玉青年師範学校と統合し、昭和24年（1949年）、国立の埼玉大学が誕生しました。鯛ヶ窪校舎は、師範学校の流れて教育学部になり、常盤キャンパスと呼ばれました。この校舎は昭和41年（1966）に埼玉大学が現在地（桜区下大久保）に移転するまで使われた後、浦和市役所として昭和48年（1973年）まで使用されました。

最後に鳳翔閣のその後として、当館との関連まで紹介しました。

鳳翔閣は明治33年（1900年）埼玉県師範学校が移転した後、新設された埼玉県立高等女学校（現在の埼玉県立浦和第一女子高等学校）が入り、翌明治34年（1901年）から新設された埼玉県女子師範学校が入りました。高等女学校は同年埼玉県立浦和高等女学校と改称しますが、新設された女子師範学校の中に併置されました。その女子師範学校も大正13年（1924年）に現在の埼玉大学附属中学校（浦和区別所4丁目）の地に移ります。

その後、鳳翔閣は旧埼玉会館建築に伴い、解体せずに曳いて北側に動かし、大正14年（1925年）埼玉県立図書館として再び利用されました。しかし、このように長きにわたり使われた鳳翔閣も老朽化には勝てず、昭和34年（1959年）解体され、現在の県立図書館が新築されました。それから13年後の昭和47年（1972年）、古材を参考にしながら一部を使用し、鳳翔閣の胴部外観だけではありませんが、浦和市立郷土博物館として復元され、合併による名称変更を経て、現在の当館があります。

③明治末期の師範学校と生徒

当時の師範学校の様子を教科書や雑誌「鳳翔」などの資料で紹介しました。

森有礼初代文部大臣は、埼玉県師範学校での演説の中で師範教育の理想を語り、埼玉県師範学校に期待していたようです。埼玉県師範学校側も師範学校の模範校となるよう気概をもっていました。しかしながら、単に厳格一点張りの管理体制がしばしば生徒と学校側との衝突を招きました。

明治38年（1905年）赴任した小島政吉校長は、それまでの管理体制を改め、いろいろな方策を立てながら生徒と一体となって校風刷新を行いました。また明治41年（1908年）には「師範学校学則」が改定され、教育内容の充実度が増しました。100年前、蹴球部を創設しサツ



カーを指導した細木志朗教諭が着任したのもそのような時でした。

【100年前のまちと出来事】

①浦和のまち

当時の浦和のまちを表現する一つ的手段として浦和の風景を描いたスケッチ画を展示しました。作者の名前は福原霞外、本名を福原馬三郎といい、明治33年（1900年）から埼玉県師範学校の教諭として図画を熱心に指導していました。

福原教諭は明治4年（1871年）大阪に生まれ、洋画を小山正太郎率いる不同舎に学びました。欧州留学も視野に入れていましたが、病のため画業を断念、教師となり滋賀県や三重県の中学校で後進の指導にあたったのち、埼玉県師範学校の教諭として浦和に住むことになりました。細木教諭とも一時期同僚の間柄でした。市内が描かれた作品として別所沼（南区）、大戸（中央区）、針ヶ谷、常盤、玉蔵院（以上浦和区）があります。

②明治の終わりから大正の初めごろにおこった出来事

いくつかのエピソードに絞って、文書や写真、地図などを展示して紹介しました。

まず師範学校と関連する出来事の一つとして、明治40年（1907年）2月28日夜の浦和火災を挙げました。烈風の中の大火に際し師範学校の生徒は、日ごろの鍛錬を発揮し消火活動など縦横無尽の働きをしました。その功績を認め、大久保利武埼玉県知事（薩摩の大久保利通の三男）は、小島校長あてに感謝の意を表した書簡を送っています。この書簡は学校の名譽を表す事物として語り継がれ、現在でも埼玉大学に保管されています。

明治40年代、まちの周辺部では大水害に見舞われています。明治40年（1907年）8月には増水した荒川の水が堤防を越えたり、決壊したりして農村部を襲いました。明治43年（1910年）8月には、さらに大規模の水害が起きました。荒川ばかりでなく利根川も決壊し、現在の岩槻区側も含めて甚大なる被害を受けました。これを期に国も河川改修を本格的に行うことにしたのです。

電話の開設はこのころです。市内で一般向けの公衆電話が開通したのは、明治36年（1903年）浦和郵便局に浦和電話所が設けられたのが最初です。明治37年（1904年）に大宮、明治42年（1909年）に岩槻で開設されました。自宅から通話できるようになったのは、ちょうど100年前の明治41年（1908年）、大宮で開通したのが始まりです。浦和では明治43年（1910年）、岩槻では明治45年（1912年）で、当時は電話交換室の交換手が手動で電話回線のコードを接続していました。

電灯が普及したのもこのころからです。浦和では埼玉電燈会社が明治37年（1904年）7月より送電を開始しました。明治41年（1908年）の発電能力は30キロワッ



トで浦和町の180戸に取り付けられていました。大宮では川越電燈会社が明治40年(1907年)に鉄道院大宮工場と大宮駅付近に送電したのがはじまりです。与野では大正2年(1913年)、岩槻では大正3年(1914年)の暮れに電灯が灯りました。

③まち風景

当時のまち風景として、駅や鉄道工場、製糸工場、氷川神社、警察署などを写真や地図で紹介しました。

明治時代、交通・輸送手段の変革として鉄道の敷設が挙げられます。中山道に平行して造られた現在の高崎線は明治16年(1883年)に開通し、このとき浦和駅が設置されました。その2年後、明治18年(1885年)に高崎線と東北線の分岐点として大宮駅が開業。与野駅ができたのは大正元年(1912年)のことです。それ以後、鉄道駅は“まちの玄関”となり、駅を中心とした町造りが行われていきました。ちなみに明治40年(1907年)の浦和駅の乗降客数は一日約1,600人でした。

また当時の産業としては交通の利便性と豊富な繭(原料)に目をつけた県外の製糸会社が、現在の浦和駅から

さいたま新都心駅一帯を中心に進出してきました。明治41年(1908年)当時、岡谷製糸大宮館、片倉組大宮製糸場など4つの大きな製糸場があり、864の釜、900人以上の工女が働いていました。

およそ100年前とは、役所や学校の多い浦和は文教都市、鉄道工場や製糸会社などが置かれた大宮は商業(工業)都市というように、まちの様子に違いが生じてきた時期という言葉でこの展示を結びました。

なお、100年前に焦点を当てた当館に対し、埼玉県立歴史と民俗の博物館では「埼玉サッカー100年」と題した100年間の埼玉サッカー興隆の歴史を、埼玉大学では「サッカー de きずな-埼玉サッカー100周年-」と題し現代の埼玉サッカー文化についてひも解きました。

また、「埼玉サッカー100周年記念事業」自体は12月まで各機関が様々な事業を行っていることから、当館としても展示に使用した写真パネルとキャプションを再利用し、回顧展として平成20年9月5日(金)から12月7日(日)までミニパネル展示を開催し、引き続き「埼玉サッカー100周年」を紹介しています。(S)

****** 行事カレンダー (平成20年10月～平成21年3月の予定) 開館時間 9時～16時30分 ******

<p>☆企画展「浦和博物館の35年」</p> <p>会 期 10月3日(金)から12月7日(日)まで</p> <p>内 容 当地に建て35年が経過した博物館の歩みを、今までに開催した展示会のチラシやパンフレット、写真などから振り返ります。</p> <p>☆文化講座「100年前の浦和とその周辺」</p> <p>日 時 12月7日(日) 14時から15時30分まで</p> <p>会 場 コルソ7階ホール</p> <p>講 師 青木 義脩 氏 (元浦和市史編集委員)</p>	<p>参加費 無料 申し込み方法など詳しくは当館まで</p> <p>☆企画展「ちょっと昔のくらしの道具展」</p> <p>会 期 12月13日(土)から平成21年4月12日(日)まで</p> <p>☆定例探鳥会〈毎月第3日曜日開催〉 (雨天中止)</p> <p>日 時 10月19日(日)・11月16日(日)・12月21日(日)・ 1月18日(日)・2月15日(日)・3月15日(日) 9時から12時まで(9時に当館集合)</p> <p>参加費 小・中学生50円、高校生以上100円</p>
--	---

日誌抄 (平成20年4月から9月まで)

- | | |
|---|---|
| <p>4/13(日) 企画展「ちょっと昔のくらしの道具展」終了</p> <p>4/13(日) 団体見学1団体</p> <p>4/14(月)～18(金) 展示替による休館(企画展→常設展)</p> <p>4/20(日) 定例探鳥会</p> <p>4/24(木) 埼玉県博物館連絡協議会総会(埼玉県立歴史と民俗の博物館)</p> <p>4/25(金) 団体見学1団体</p> <p>5/14(水) 三室小6年総合学習</p> <p>5/16(金) 団体見学2団体</p> <p>5/18(日) 定例探鳥会</p> <p>5/18(日) 団体見学1団体</p> <p>6/13(金) 三室小2年見学</p> <p>6/14(土) 親子探鳥会</p> <p>6/15(日) 定例探鳥会</p> <p>6/28(土) 団体見学1団体</p> <p>7/4(金) 埼玉県博物館連絡協議会南部地域管理職研修会(ジョン・レノン・ミュージアム)</p> <p>7/14(月)～18(金) 展示替による休館(常設展→特別展・企画展)</p> <p>7/19(土) 特別展「百年前のさいたま」開催</p> <p>7/19(土) 企画展「夏休みこども博物館」開催</p> <p>7/20(日) 定例探鳥会</p> <p>7/20(日)～8/3(日) 学芸員実習生の受け入れ(6名)</p> <p>7/22(火)～24(木) 中学生職場体験(本太中)</p> <p>7/24(木)～27(日) 昔のおそび(体験教室)</p> | <p>7/25(金) 埼玉県博物館連絡協議会前期研究会(埼玉県立歴史と民俗の博物館)</p> <p>7/26(土) 昔のおもちゃ作り(体験教室)</p> <p>7/27(日) クイズ大会(体験教室)</p> <p>7/29(火) 団体見学1団体</p> <p>8/9(土)・10(日) 見沼通船堀のしくみ(体験教室)</p> <p>8/17(日) 定例探鳥会</p> <p>8/22(金) 団体見学1団体</p> <p>8/24(日) 団体見学1団体</p> <p>9/1(月)～4(木) 展示替による休館(特別展・企画展→常設展)</p> <p>9/19(金) 埼玉県博物館連絡協議会南部地域一般職研修会(ジョン・レノン・ミュージアム)</p> <p>9/21(日) 定例探鳥会</p> <p>9/29(月)・9/30(火) 展示替による休館(常設展→企画展)</p> |
|---|---|

さいたま市立浦和博物館館報 **あかんさす** No.96
 編集・発行 さいたま市立浦和博物館
 〒336-0911 さいたま市緑区三室2458番地
 TEL・FAX 048-874-3960
 発行日 平成20年9月30日
 ホームページ <http://www.city.saitama.jp>
 E-mail urawa-museum@city.saitama.lg.jp